

2. 中山間・高冷地向けの良食味品種「じょうでき」の栽培法

福島県農業試験場冷害試験地・平成11年度春夏作試験成績概要

1 部門名 水稲－水稲－施肥法、栽植様式・栽植密度 01－01－13150000

2 担当者 小森秀雄 本馬昌直 大谷裕行

3 要 旨

「じょうでき」の良食味・安定生産につながる生育指標と栽培法を検討した。

(1) 倒伏との関係から稈長が85cm以下であれば、倒伏度100以下に抑えられ、部分的にも程度3以上の倒伏は発生しないと推定された。稈長が85cm以下となる幼穂形成期の生育指標は、草丈70cm以下、SPAD値による葉色値は44以下であった。

(2) 窒素施肥体系は、玄米のタンパク含有率も7%以下でほぼ最高収量が得られた基肥0.6kg/a＋幼穂形成期追肥0.2kg/aが基準となる。

(3) 栽植密度は、籾数の確保が容易になり増収につながることから、やや密植の24株/m²程度が適当と考えられた。

(4) 実証展示圃等の結果より縦溝の深い未熟粒や穂発芽により品質が低下した事例が見られた。未熟粒対策としては、ア 基肥窒素0.6kg/a以下の順守により適正籾数3.5万粒前後に抑え、登熟歩合85%以上を確保する、イ 後期追肥(減数分裂期以降)は未熟粒が増加する傾向にあるので幼穂形成期以降の追肥は実施しない、の2つが考えられる。穂発芽を防止するためには、基準施肥量を守り倒伏を避けるとともに、適期に収穫を行うことが必要である。